

がん化学(放射線)療法レジメン申請書

* 記入不要です

申請期日	
診療科名	
診療科長 署名	
申請医師 署名	
登録確認日	
登録削除日	

受付番号	*
がん腫(コード)	*
レジメン登録ナンバー	*

以下(a), (b)は 2 ページ目記載の参考にし

がん種	レジメン名	実施区分	使用分類	適応分類
尿路上皮癌	ジェムシタ ビン + シス プラチン	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来 <input type="checkbox"/> 入院及び外来	<input checked="" type="checkbox"/> 日常診療(試験以外) <input type="checkbox"/> 単施設自主研究 <input type="checkbox"/> 多施設自主研究 <input type="checkbox"/> 市販後臨床試験 <input type="checkbox"/> 治験 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 術前補助化学療法 <input type="checkbox"/> 術後補助化学療法 <input checked="" type="checkbox"/> 通常化学療法 <input type="checkbox"/> 大量化学療法 <input type="checkbox"/> その他()

臨床試験の場合記入	
期間	~
Phase	<input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> I/II <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> II/III <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> その他

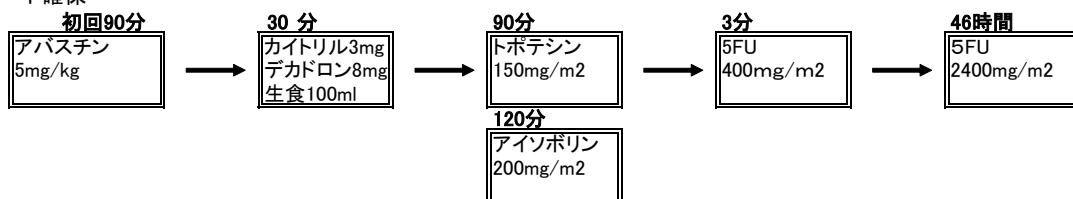
てください。

(a)投与スケジュール記載例

開始時の設定投与量	mg/kg	day	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
薬剤名	mg/m ²																													
アバスタチン	5mg/kg	●																												
トポテシン	150mg/m ²	●																												
アイソボリン	200mg/m ²	●																												
5FU	400mg/m ²	●																												
5FU	2400mg/m ²	●																												

(b)1 日のスケジュール記載例

ルート確保



1ページ目の記載例に準じて記入してください。

(a) 投与スケジュール

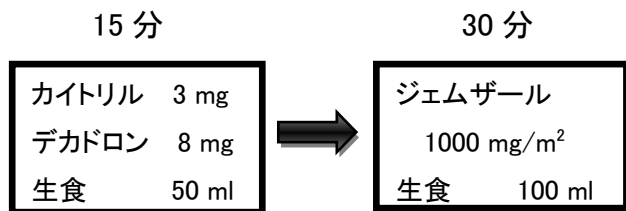
(行の挿入、表のコピーペーストは可能です。)

薬剤名	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ジェムザール	1000 (mg/m ²)	●							●							●													
シスプラチン	70 (mg/m ²)		●																										
1コース期間		28日				目標コース数				□有 (コース) ■無 (PDまで)																			

(b) 1日のスケジュール (投与時間も記入してください。テキストボックスはコピーアンドペーストで増やせます。)

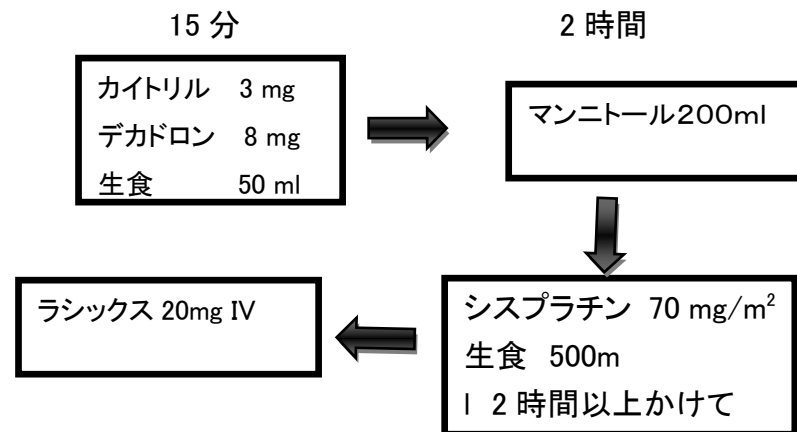
【Day1, 8, 15】

ルート確保(80ml/時 24時間)



【Day2】

ルート確保(150ml/時 48時間)



(審査の参考にしますので簡単に記載してください。)

基準項目	進行性尿路上皮癌(膀胱癌、腎盂尿管癌)
適格基準	
除外基準	高度な骨髄抑制のある患者。 臨床症状のある間質性肺炎のある患者 高度腎機能障害のある患者
開始基準	
次コース 開始基準	
休薬基準	WBC の ↓
投与量 変更基準	
中止基準	

・本レジメンが、臨床試験の場合はプロトコールの解説を簡単に記載してください。

・レジメン審査の規準は以下のとおりとなっています。

- ① 標準治療であること。または、標準治療に準ずる治療であること。
- ② IRBの審査を受けた試験であること。

これらの規準をふまえた上で、本レジメンのエビデンスを簡単に記載してください。

尿路上皮癌に対する標準化学療法としては M-VAC 療法が一般的であるが、現在ゲムシタビン+シスプラチンの化学療法が M-VAC 療法に比べて副作用も少なく、効果も同等であると報告されている。このため尿路上皮癌に対してゲムシタビン+シスプラチン療法が多くの施設においても第1選択となってきている。

当院としても尿路上皮癌に対する化学療法の第1選択としたい。

